

重点取組分野	令和 4 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
学力向上	① 知識等の定着を図る授業とそれらを活用・応用した授業をバランスよく計画的に進める。 ② 主体的に問題に取り組むために、学び合うこと、伝え合うこと、認め合うことができる場面の構築を図り、本時のめあての確認と振り返りの時間を取り入れ、子どもが主体的に学習を進められるようにする。 ③ 指導の狙いに応じて授業での児童の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かす。	①基礎・基本の定着に時間をかけた。単元に入る際には、学年で検討し学習計画を立てている。問題については活用・応用まで行いやすかったが、算数は知識の定着に時間を多くとり、活用・応用にかかる時間は少なかった。 ②特に、生活・総合的な学習の時間を中心に主体的に学習に取り組む様子が見られた。また、ホワイトボードを活用し学びを共有したり、主体的に取り組んだりする姿が見られた。 ③学年研などで振り返りを共有し、次の学習・活動に生かせるようにした。専科・教科担任制でも授業を行って気づいたことを次の指導に生かした。	B
豊かな心	① 子ども人権会議や児童会活動の取組を通して、子どもの人権意識を一層高めていく。決定事項や全校で取り組みたいことについて周知し、より主体的に取り組めるようにする。 ② 教職員の人権意識を高める研修を実施するとともに、人権教育を充実させる。 ③ 感染症対策が必要なことを踏まえながら、できる限り異学年間士の交流を広げ、相手思いやる気持ちを育てる。	①児童会活動の人権委員会を通して、「あいさつ運動」や「ふわ言チャレンジ」など子ども人権意識を踏まえた取組を実施することができた。また、人権キャラバンで主体的に取り組むための工夫をした。 ②夏に人権研修を開き、教職員一人一人の人権意識を高める取組をしたり、人権キャラバンで教職員が主体的に人権について考えながら取り組めるようにした。 ③ペア学年の取組を推進し、双方向の働きかけによる活動を通して、思いやりの心を育てた。	B
健やかな体	①「感染症予防」を推進するとともに、自らの健康は自らで守り、生活していく習慣を身につける。 ②「命の授業」の取組により効果的な時期や内容の吟味を行う。 ③基礎体力の向上を図るため、体育や休み時間等を活用し、リズム縄跳びや大縄跳びを全校で取り組む。	①「感染症予防」としての手洗いやアルコール消毒、マスク着用等の意識や習慣は身に付いてきた。一方で、アルコール消毒やマスク着用などの表面での対策で満足してしまい、感染という観点ではなく、身の回りの衛生という観点では、意識が育っていない様子も見られた。 ②「命の授業」では、時期や内容を吟味し、学年に応じて命の学習を効果的に行うことができた。 ③リズム縄跳びや大縄跳びなど、特に低学年は意欲的に取り組んでいた。リズム縄跳びが2年目になり、全体的な技能向上も目指すことができた。	B
自分づくり教育 (キャリア教育)	①「横浜の時間」を中心に、地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりの中で、一人ひとりの自己有用感を高めるようにする。②学年に応じて、地域住民や企業にかかわる学習活動を年間計画に位置付け、学ぶことや働くことの意義を考えられる場を設定する。	①「横浜の時間」を中心に地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりの中で、一人ひとりの自己有用感を高める活動を取りたかったが、コロナの感染状況に応じて対応を求められることが多く、積極的に関わりにくい状況であった。内容を精査した上で学習に沿って、外部の専門家や地域の人材を招いたり地域に出かけたりして学んだ。	B
特別支援教育	①一般級、個別支援学級問わず、すべての学級において環境整備を全職員で行い、ユニバーサルデザインについて理解する。②障害を理由に、授業に参加できない状況にないか常に教育活動を見直し、誰一人取り残すことなく、授業に参加できるように取り組む。③保護者や児童、管理職とよく話し合いながら教育的配慮を必要とする児童に適切な配慮をしていく。	①夏休みの職員研修や校内支援委員会等を通して環境整備を行い、ユニバーサルデザインについて理解する。②児童の特性を理解し、いろいろな角度から児童が快適に学習できる環境や体制を考えた。③保護者や児童、管理職とよく話し合いながら教育的配慮を必要とする児童に適切な配慮を考えた。	B
児童生徒指導	①学校スタンダードをもとに児童が安心して過ごせる学校運営に努める。②職員会議や校内支援委員会において、児童の状況を共通理解する。③「Y-P.A.アセスメント」「児童アンケート」を活用し、多面的な児童理解と具体的な支援・指導を実践する。④不登校児童、家庭へのこまめな連絡をし、学習の支援の在り方を探り、学びが継続できるようにする。	①学校スタンダードをもとに児童が安心して過ごせる学校運営に努めた。②職員会議や校内支援委員会において、児童の状況を共通理解した。③「Y-P.A.アセスメント」「児童アンケート」を利用して、多面的な児童理解と具体的な支援・指導を実践した。④不登校児童、家庭へのこまめな連絡をし、学習の支援の在り方を考え、実施した。	B
いじめへの対応	①いじめについて職員一人ひとりが意識を高く持てるよう研修や話し合いの場を設ける。②月1回以上定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過観察をいねいに行うことで再発防止に努める。③年3回の児童アンケートにより些細な変化を見逃さない体制づくりをする。	①いじめについて職員一人ひとりが意識を高く持てるよう研修や話し合いの場を設けた。②月1回以上定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過観察をいねいに行うことで再発防止に努めた。③年3回の児童アンケートにより些細な変化を見逃さない体制づくりをした。	B
人材育成・ 組織運営(働き方)	①5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが講師となって若手同士で研鑽できる部分を育てていく。②定期的に、教務会及び学年研究会を行い、ミドルリーダー等が全体を見通して学校運営していく場を設定する。③ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図るとともに、全職員の組織的な働き方改革につなげる。	①経験5年以下の教職員を中心にしたメンターチームを組織し、ミドルリーダーが講師となって若手同士で研鑽を試みた。②定期的に、教務会及び学年研究会を行い、ミドルリーダー等が全体を見通して学校運営していく場を設定する。③ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図るとともに、全職員の組織的な働き方改革につなげた。	B
地域学校協働活動	①地域コーディネーターを中心に、新入生児童のサポートや児童見守り活動を保護者と協力して取り組んでいく。②学校運営協議会を中心に地域と連携して、児童の健全な育成につとめる。③周年行事等を通して、学校と地域の関係を深めていく。	①地域コーディネーターを中心に、新入生児童のサポートや児童の見守り活動を保護者と協力して取り組んだ。②学校運営協議会のメンバーを選定し、今後の活動の見直しをたてた。③周年行事等の計画を立て、学校と地域の関係を深めた。	B
	a25		
ブロック内 評価後の 気づき	・合同授業研では、ICTを用いた授業を行い、連続性のある学習のあり方や効果的な活用について検討した。各学校の学習指導について意見を交わすとともに、中学校に上がるまでに学習すべきICT教育の範囲やルール作り等についても確認することができた。 ・教務主任会では、働き方改革についても話題となった。その中で、あゆみの形式やそれに伴う保護者面談のあり方等を検討していくことが確認された。		
学校関係者 評価	・学びの歩みを止めず、新しい生活様式に取り組み、学校行事も内容の精選・変革に取り組んだ。 ・基礎・基本の定着や豊かな心の育成に向け、着実に取り組んでいた。 ・ICT活用の推進が行われ、教育DXに取り組んだ。多くの場面でデジタル化が進んできた。		
中期取組 目標 振り返り	・誰もが安心して笑顔で過ごすことのできる学校づくりをテーマに掲げ、日々の授業や学校行事に取り組んできた。学校評価アンケートにおいても、9割以上の児童が「学校が好き」「学校生活が楽しい」と回答するなど、笑顔で前向きに過ごしている様子が見られた。 ・情報活用能力を生かし問題解決する子どもの育成を目指して、タブレット端末を効果的に活用した授業デザインの研究を進めた。来年度も継続して研究していく。また、職員においてもICTを活用して事務の効率化を図ることができた。		

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
学力向上	① 基礎学力の定着を図る授業を重視し、それらを活用・応用した授業も計画的に進める。 ② 主体的に問題に取り組むために、学び合うこと、伝え合うこと、認め合うことができる場面の構築を図り、本時のめあての確認と振り返りの時間を取り入れ、子どもが主体的に学習を進められるようにする。 ③ 指導の狙いに応じて授業での児童の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かす。	①基礎学力の定着を図る授業を重視し、それらを活用・応用した授業も計画的に進める。 ② 主体的に問題に取り組むために、学び合うこと、伝え合うこと、認め合うことができる場面の構築を図り、本時のめあての確認と振り返りの時間を取り入れ、子どもが主体的に学習を進められるようにする。 ③ 指導の狙いに応じて授業での児童の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かす。	
豊かな心	① 子ども人権会議や児童会活動の取組を通して、子どもの人権意識を一層高めていく。決定事項や全校で取り組みたいことについて周知し、より主体的に取り組めるようにする。 ② 教職員の人権意識を高める研修を実施するとともに、人権教育を充実させる。 ③ ペア学年での活動を中心とした異学年間士の交流を広げ、相手思いやる気持ちを育てる。	① 子ども人権会議や児童会活動の取組を通して、子どもの人権意識を一層高めていく。決定事項や全校で取り組みたいことについて周知し、より主体的に取り組めるようにする。 ② 教職員の人権意識を高める研修を実施するとともに、人権教育を充実させる。 ③ ペア学年での活動を中心とした異学年間士の交流を広げ、相手思いやる気持ちを育てる。	
健やかな体	① 感染症だけを意識するのではなく、衛生面全体について意識を高める。ハンカチティッシュの持参、掃除の指導の徹底等、身の回りをきれいに保つこと。 ② 「命の学習」の取組を引き続き行って、自分自身の命についてより効果的に顧みることができるようフィードバックをしっかりと行っていく。 ③ リズム縄跳びや大縄跳びに加え、全校集会や休み時間のイベント等で様々な種類のスポーツに触れる機会を作る。	① 感染症だけを意識するのではなく、衛生面全体について意識を高める。ハンカチティッシュの持参、掃除の指導の徹底等、身の回りをきれいに保つこと。 ② 「命の学習」の取組を引き続き行って、自分自身の命についてより効果的に顧みることができるようフィードバックをしっかりと行っていく。 ③ リズム縄跳びや大縄跳びに加え、全校集会や休み時間のイベント等で様々な種類のスポーツに触れる機会を作る。	
自分づくり教育 (キャリア教育)	①「横浜の時間」を中心に地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりの中で、一人ひとりの自己有用感を高めるようにする。②学年に応じて、地域住民や企業にかかわる学習活動を年間計画に位置付け、学ぶことや働くことの意義を考えられる場を設定する。	①「横浜の時間」を中心に地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりの中で、一人ひとりの自己有用感を高めるようにする。②学年に応じて、地域住民や企業にかかわる学習活動を年間計画に位置付け、学ぶことや働くことの意義を考えられる場を設定する。	
特別支援教育	①すべての学級に在籍する児童が学習に取り組みや、ユニバーサルデザインの研修を実施し、職員の理解を深める。②配慮を要する児童に対して担任・SC・SSW・管理職等と連携して、児童が学びやすい環境を整えていく。③保護者や児童本人とよく話し合ったうえで、学習の進め方を考えていく。	①すべての学級に在籍する児童が学習に取り組みや、ユニバーサルデザインの研修を実施し、職員の理解を深める。②配慮を要する児童に対して担任・SC・SSW・管理職等と連携して、児童が学びやすい環境を整えていく。③保護者や児童本人とよく話し合ったうえで、学習の進め方を考えていく。	
児童生徒指導	①学校スタンダードをもとに児童が安心して過ごせる学校運営に努める。②職員会議や校内支援委員会において、児童の状況を共通理解する。③「Y-P.A.アセスメント」「児童アンケート」を活用し、多面的な児童理解と具体的な支援・指導を実践する。④不登校児童、家庭への連絡を密にし、学習支援の在り方を考えていく。	①学校スタンダードをもとに児童が安心して過ごせる学校運営に努める。②職員会議や校内支援委員会において、児童の状況を共通理解する。③「Y-P.A.アセスメント」「児童アンケート」を活用し、多面的な児童理解と具体的な支援・指導を実践する。④不登校児童、家庭への連絡を密にし、学習支援の在り方を考えていく。	
いじめへの対応	①職員がいじめについての意識を高く持てるよう、校内支援委員会での情報の共有や夏休みの研修を実施していく。②月1回以上定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知されたいじめ案件について経過観察をいねいに行っていく。③児童アンケートを実施し、児童の些細な変化について気づく機会を設ける。	①職員がいじめについての意識を高く持てるよう、校内支援委員会での情報の共有や夏休みの研修を実施していく。②月1回以上定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知されたいじめ案件について経過観察をいねいに行っていく。③児童アンケートを実施し、児童の些細な変化について気づく機会を設ける。	
人材育成・ 組織運営(働き方)	①5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが講師となって若手同士で研鑽できる部分を育てていく。②定期的に、教務会及び学年研究会を行い、ミドルリーダー等が全体を見通して学校運営していく場を設定する。③ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図るとともに、全職員の組織的な働き方改革につなげる。	①5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが講師となって若手同士で研鑽できる部分を育てていく。②定期的に、教務会及び学年研究会を行い、ミドルリーダー等が全体を見通して学校運営していく場を設定する。③ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図るとともに、全職員の組織的な働き方改革につなげる。	
地域学校協働活動	①地域コーディネーターを中心に、新入生児童のサポートや児童の見守り活動を保護者と協力して取り組んでいく。②学校運営協議会を中心に地域と連携して、児童の健全な育成に努める。③周年行事を通して、学校と地域の関係を深めていく。	①地域コーディネーターを中心に、新入生児童のサポートや児童の見守り活動を保護者と協力して取り組んでいく。②学校運営協議会を中心に地域と連携して、児童の健全な育成に努める。③周年行事を通して、学校と地域の関係を深めていく。	
	b10		
ブロック内 評価後の 気づき	・合同授業研では、ICTを用いた授業を行い、連続性のある学習のあり方や効果的な活用について検討した。各学校の学習指導について意見を交わすとともに、中学校に上がるまでに学習すべきICT教育の範囲やルール作り等についても確認することができた。 ・教務主任会では、働き方改革についても話題となった。その中で、あゆみの形式やそれに伴う保護者面談のあり方等を検討していくことが確認された。		
学校関係者 評価	・学びの歩みを止めず、新しい生活様式に取り組み、学校行事も内容の精選・変革に取り組んだ。 ・基礎・基本の定着や豊かな心の育成に向け、着実に取り組んでいた。 ・ICT活用の推進が行われ、教育DXに取り組んだ。多くの場面でデジタル化が進んできた。		
中期取組 目標 振り返り	・誰もが安心して笑顔で過ごすことのできる学校づくりをテーマに掲げ、日々の授業や学校行事に取り組んできた。学校評価アンケートにおいても、9割以上の児童が「学校が好き」「学校生活が楽しい」と回答するなど、笑顔で前向きに過ごしている様子が見られた。 ・情報活用能力を生かし問題解決する子どもの育成を目指して、タブレット端末を効果的に活用した授業デザインの研究を進めた。来年度も継続して研究していく。また、職員においてもICTを活用して事務の効率化を図ることができた。		

重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
学力向上	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
自分づくり教育 (キャリア教育)	c4		
特別支援教育	c5		
児童生徒指導	c6		
いじめへの対応	c7		
人材育成・ 組織運営(働き方)	c8		
地域学校協働活動	c9		
	c10		
ブロック内 評価後の 気づき	・合同授業研では、ICTを用いた授業を行い、連続性のある学習のあり方や効果的な活用について検討した。各学校の学習指導について意見を交わすとともに、中学校に上がるまでに学習すべきICT教育の範囲やルール作り等についても確認することができた。 ・教務主任会では、働き方改革についても話題となった。その中で、あゆみの形式やそれに伴う保護者面談のあり方等を検討していくことが確認された。		
学校関係者 評価	・学びの歩みを止めず、新しい生活様式に取り組み、学校行事も内容の精選・変革に取り組んだ。 ・基礎・基本の定着や豊かな心の育成に向け、着実に取り組んでいた。 ・ICT活用の推進が行われ、教育DXに取り組んだ。多くの場面でデジタル化が進んできた。		
中期取組 目標 振り返り	・誰もが安心して笑顔で過ごすことのできる学校づくりをテーマに掲げ、日々の授業や学校行事に取り組んできた。学校評価アンケートにおいても、9割以上の児童が「学校が好き」「学校生活が楽しい」と回答するなど、笑顔で前向きに過ごしている様子が見られた。 ・情報活用能力を生かし問題解決する子どもの育成を目指して、タブレット端末を効果的に活用した授業デザインの研究を進めた。来年度も継続して研究していく。また、職員においてもICTを活用して事務の効率化を図ることができた。		